

観点Ⅲ 事前指導の実施

観点Ⅲ-1 : 生活面の指導の工夫

よくある課題

児童・生徒に目的意識をもって意欲的に活動に取り組んでほしい。

→ポイント①



活動中のトラブルを防ぎたい。
→ポイント②

実施にあたってのポイント

ポイント① 事前の意識付け (→p.88)

⇒農山漁村体験活動を通じて、何を学びたいか、どのように成長したいか、児童・生徒自身に考えさせることで、モチベーションを向上させることが可能。

また、上級生の体験談を聞く事ができれば、活動に参加する児童・学生と近い目線でのアドバイスにより、教員では気付きにくいポイントまで伝達することが可能。

ポイント② 活動中のルール作り (→p.91)

⇒生活習慣や健康管理の定着、または自主性や実践的な態度を育むために、活動中のルール・マナーを児童・生徒自身で設定。

ポイント① 事前の意識付け

児童・生徒に活動の意義や目的を明確に意識づけることで、活動から得られる教育効果を高めることができます。また、児童・生徒自身に、ねらいを自ら設定する機会を用意することで、課題設定能力が育まれると考えられます。

目的意識を植え付ける取組（例）

活動前

活動中

活動後

取組
(例)

農業体験

活動をまとめる
新聞作り

活動の発表

学校が提示する
意義・ねらい

- ・ 人間関係のあり方や築き方を感じる
- ・ 食の大切さや農林漁業への理解を深める

- ・ 自分の学びや考えをまとめて他人に正確に伝える
- ・ 他の人の発表を聞いて、自分では気が付かなかった学びを得る。



児童・生徒自身に

それぞれの意義・ねらいを設定させる

活動中・後の取組やあるべき姿を設定し、意識することで、**活動中の目的意識**が高まり、より主体的に活動に取り組むようになります。

事後学習で実施する学習内容と、それに向けた活動中の姿勢を明確に提示することで、児童・生徒は目的意識を持って活動に臨むことができ、さらに事前学習・活動・事後学習の一貫した学習の流れを作ることができます。

事後学習を意識させる指導の一例（武蔵野市立第四中学校）

【活動前に生徒へ配布したプリント】

事後学習に向けて

1. 現地での学習と事後学習に関して

事後学習は、農家班で一枚の模造紙に様々な体験をレポートし、学園祭に展示します。

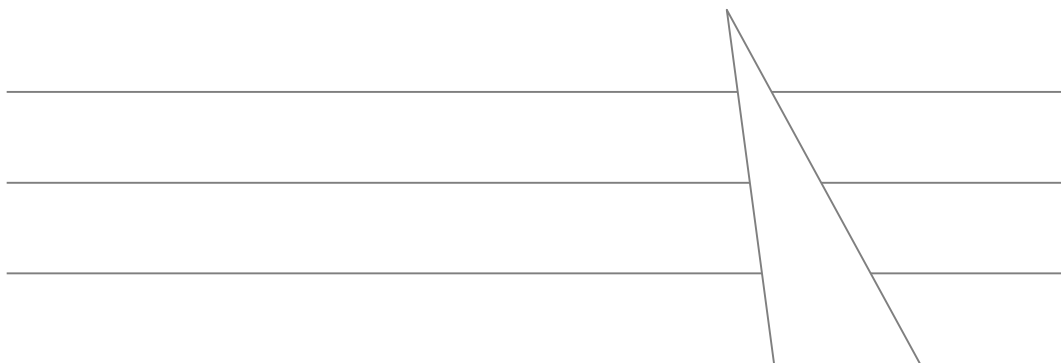
セカンドスクール中に見たこと、体験できたこと、聞いたことなどを記録しておこう。

しっかりと記録をとっておくと、事後新聞作りがスムーズにできます。

＜事後新聞の内容＞

①農家体験レポート、②農家の方へのインタビュー記事、③自分の感想（全体を通しての感想でもよい）、④その他事前学習で調べたことやセカンドスクールで印象に残ったこと

・印象に残ったことをメモしておこう。（事後新聞作りにむけて。箇条書きでOK）



事後学習の内容を、事前に意識付ける表記をしています。

上級生の体験談はリアリティがあるため、児童・生徒は、より自分事として捉えます。
発表者とは事前にすり合わせを行い、目的を共有しておくことが大事です。

上級生に語ってもらうこと

- ✓ 農山漁村体験活動の経験が
現在どのように生きているかを伝えてもらい、
有用性を伝えてもらいます。
- ✓ 民泊での自身が参加する前に不安視して
いた事項を思い出し、伝えてもらいます。

下級生が心がけること

- ✓ 自身で疑問に思っていることを事前に洗い
出しておき、先輩から疑問点を積極的に
聞き出します。
- ✓ 先輩の良いところを見つけ出し、活動後の
自身のあるべき姿を明確にします。

このような学び・気づきがあり、農山漁村
体験活動の経験を日頃の行動に繋げている。



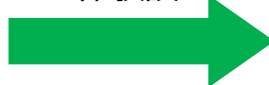
後輩達には、
主体的に取り
組んで欲しい。

初めての土地で、
このような魅力を感じることができた。

上級生（昨年度参加者）

- 農山漁村体験活動に対するモチベーション
向上
- 児童・生徒に目的や意義の再確認

体験談



児童・生徒

実施目的の
事前すり合わせ



教員

学生の心構えや意欲をかき立てて、
実りある農山漁村体験活動にしてもらいたい

ポイント② 活動中のルール作り

スローガンや生活の決まりを児童・生徒に考えさせることで、児童・生徒の自主性等が育まれます。
また、そのルールが遵守されることで、受入れ側も快く児童・生徒を迎え入れることができます。

児童・生徒主導のルール遵守体制（例）

実行委員
(立候補制)



班 長



その他
児童・生徒



事前

ルールの作成

選挙で指名され、就任

選挙で班長を指名

活動中

実行委員作成のルール
を班員に徹底させる

ルールの遵守

効果

集団としての質の向上

・自主性を持った行動 ・指示を聞き、理解して行動 ・時間・ルールの厳守

ルール作りに関する取組例

実行委員による
ルール作成

クラス委員を中心に形成される実行委員会が
ルールを作成し、手引きに掲載するなどして学年全体に共有

児童・生徒各々が
授業でルール作成

児童・生徒同士の「我が家のルール」を紹介し合うことを
通じて、それぞれの家庭に様々なルールがあることに気づき、
農泊先でどのように過ごすべきかを考える道徳の授業を実施

農山漁村体験活動中のルールや班の編成等について、児童・生徒に自ら考えさせることで、教員が決めた場合と比べて、より自主的・実践的な活動が期待されます。

例えば、活動班と生活班を別々に構成した場合には、それぞれで交流する児童・生徒が異なるため、新たな気づきを得る機会が増えます。

班の分担とそれぞれの役割（例）

活動班・・・各種活動を円滑に実施するための班

分 担	役 割（例）
班 長	班員の人数確認・教員への報告、毎晩の「班長会議」への出席、班員への各種連絡、等
副班長	班長のサポート、活動内容の周知、等
準備係	活動の事前準備、後片付けの確認、等
記録係	体験活動の内容や振り返りの記録、等
企画係	キャンプファイアー等の企画、児童・生徒が企画したプログラム準備、等

※ 男女混合の班となるように調整（宿泊班は男女別となるため）

生活班・・・規律ある集団生活を行うための班

分 担	役 割（例）
室 長	宿泊部屋毎に班員へのスケジュールの確認や各種連絡、消灯、等
保健係	班員の健康観察結果をカードに記入し、教員に提出、等
生活係	入浴時間の連絡、部屋やテントに掲示する名札の作成、及び取り付け、等
食事係	食事の連絡、調理や野外炊飯の準備、後片付けの点検、等
美化係	お風呂やトイレ、部屋等の清掃計画や点検、等

※ 宿泊を伴う班であるため、男女別で構成

班別に作成する活動計画書（例）

活動を通じて、何を学びたいのか、どのような能力を身に付けたいのか、児童・生徒が自ら目標を設定する機会を与えることで、より熱心に活動するようになります。

班別活動計画書

組 班 学習係

活動内容

担当の先生

目標

持ち物

	持ち物	確認		持ち物	確認
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

活動場所

行動計画・役割分担

時間	内容	活動	担当	その他
9:00	整列・点呼 体験場所に移動			
9:15	活動			
	昼食 後片付け			
12:00	体験終了			
13:30	ポイントラリー			

指示されるがまま行動するのではなく、自分たちで役割分担を考え、行動することで、自主性が磨かれます。

児童・生徒がルールを作る際、教員は児童・生徒の自主性を損なわれないようにフォローに徹しながらも、正しいルールが作成されるようチェックをしておく必要があります。

宿泊施設でのルールの一例（千葉市立さつきが丘西小学校）

青年の家での生活の仕方

- ていねいに、きれいに使いましょう
- 礼儀正しく接しましょう
- 気持ちのよいあいさつを心がけましょう
- 5分前行動を心がけて、時間厳守で次の活動ができるようにしましょう

生活棟	・ 走ったり、大声を出したりしないで、静かに行動する ・ 整理整頓に心がける ・ 部屋での飲食は禁止 ・ 消灯時刻 10:00 起床時刻 6:30 を守る ・ 寝るときは、冷暖房のスイッチを切り、窓は閉める ・ 他の部屋には入らない ・ ドアの開閉は静かに行う ・ ベランダ・窓から身を乗り出さない ・ 上靴をきちんとそろえて脱ぐ ・ トイレのサンダルは、いつもそろえておく ・ 火災や自身が発生したら、慌てずに先生の指示に従って避難する
-----	---

＜ベッドの使い方＞

ベッドメイキングの仕方	① ベッドパットをしく ② シーツを2枚しき、パッドの下に折り込む上のスーツを ③ 毛布かける ④ 上のシートの頭の方だけ、毛布の方に折り返す ⑤ 毛布をパッドの下に折り込む ⑥ まくらにカバーをつける ⑦ シーツとシースの間に入って寝る
ベッド・ふとんの整理の仕方	① 毛布は八つ折りにたたむ ② シーツは八つ折り、まくらカバーは四つ折りにたたむ ③ パットは三つ折りにたたむ ④ パット・毛布・シート・まくらカバー・まくらの順に重ねて、足元の方に置く ※シート・まくらカバーは、退所の朝にたたんで返す

観点Ⅲ 事前指導の実施

観点Ⅲ-2 : 事前学習の工夫

よくある課題

農山漁村体験活動を大きな
学びの場として活用することは
できないか

→ポイント①



実施にあたってのポイント

ポイント① 学びの連続性・発展性を重視した事前学習（→p.96）

⇒農山漁村体験での経験がその場限りの単発の学びにならないように、事前学習・体験
活動中・事後学習でつながりのある連続した学びを与えることで、学習効果の定着を実現。
事前学習にあたっては、体験活動の内容からより多くの「気付き」や「学び」を得るため、
事前知識を獲得する予習等を実施。

ポイント① 学びの連続性・発展性を重視した事前学習

学校が期待する体験の教育効果をより大きくするために、活動の予習を実施します。

活動の予習となる事前学習に関する事例

農山漁村体験活動のねらい	効果を拡幅するための事前学習テーマ
環境保全の意識醸成	- 受入地域の環境問題 - 温暖化・食糧問題等、世界的な環境問題 ＜例＞ 森林の果たす役割やそこに従事する人の活動について学び、森を維持していくための工夫や努力、日本のエネルギー問題について考える。
文化の異なる生活への理解	- 受入地域の地理や歴史、風土 - 身の回りの生活・文化の振り返り ＜例＞ 米粉の利用が盛んな受入地域で、米粉カレー作りを行う前に、我が家のカレー作りについて発表を行う。
農業への理解	- 農業の歴史や植物の成長 - 農作物が家庭に届くまでの流通経路 ＜例＞ 主な農産物が日本のどこで生産されているかを調べ、白地図に分布の様子を表現させる。
コミュニケーション能力の向上	- 正しい日本語の使い方 - 人に物事を正確に伝える力の習得 ＜例＞ 受入れ側に対して、自己紹介を含む手紙の作成する。 時候の挨拶等、手紙の書き方を学ぶ。

出典)

長期宿泊体験活動実践校における取組事例の概要（都市農山漁村交流活性化機構）

学校教育における『集団宿泊活動』の手引き-各教科等の関連を図る教育課程編成指導資料-
（国立青少年教育振興機構）

考慮すべきこと①：年間の学習の流れに沿った学習にする

- 各教科の年間のテーマに該当する学習でなければ、その教科の時間に関連付けられない。
例：総合
「課題の設定・解決」が年間の総合の授業のテーマの場合、
農山漁村体験の個人目標の設定を総合的な学習として行う

考慮すべきこと②：「机上の空論」にならない学習にする

- 受入れ先で実感を持った学びを得るため、その土地ならではの具体的なテーマを取り上げた学習を行う。
例：歴史
事前学習で縄文時代について学び、活動中に遺跡見学を行う等、
現地で実感を伴う体験をすることで、事前学習の内容が定着

出典）千葉市立大宮小学校・武蔵野市第四中学校ヒアリング

事前・事後学習を教科等の教育課程に関連付けた事例

国語

テーマ：「新聞を書こう」

概要：農山漁村体験を通して体験したことや感じたことなどを メモに残し、帰校後に新聞にして書きまとめる

- 書く能力を向上させるために、子供たちが経験した内容について、構成や伝えたいことを明確にしながら、文章にすることが有効です。
- その一つの方法として、活動した内容を新聞にすることが考えられます。
- 農山漁村体験という“心が動く”経験後に児童・生徒に適切な指導を行い、書く力を向上させましょう。
- 新聞を子供たちに発表させ、論理の展開などについて感想等を伝えあうことで、自分の文章の良い点や改善点が見つけられるとともに、話す能力の向上も期待できます。



「なぜ農山漁村体験活動と関連付けるのか？」

普段とは違う場所での経験をすることで、伝えたい内容が明確化しやすいとともに、体験した地域に関する情報を集め、その情報に関する客観性を確認する機会にもなることから、書く能力を高めるには有効な機会です。

学習指導要領（中学校）の抜粋

（第1節 国語 第2 各学年の目標及び内容〔第3学年〕）

（1）書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。
- イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。
- ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。
- エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。
- オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

（2）（1）に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。
- イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。

事前学習

主な学習活動	指導上の留意事項
1. 新聞を書くにあたっての構成や留意事項などを学ぶ。	- 見出しの付け方や読み手に伝わりやすい構成に関して学習する。 - 図表やグラフなどの効果的な使い方や引用の仕方について学習する。
2. 感じたことや体験したことをメモに書く練習を行う。	短い言葉や文章をメモする練習を行う。

体験活動

事後学習

主な学習活動	指導上の留意事項
1. メモを基にして、書くテーマを決め、構成を考え、記述する。	書きたいテーマを明確にし、そのテーマにあった見出しや構成を考え、本文を記述する。
2. 書き綴った文章を見直す。	言葉の使い方や構成の仕方等に視点を定め、見直させる。また、必要に応じて、見直したものを清書させる。
3. 友達と書いたものを相互に発表し、意見を述べ合う。	友達の活動新聞の良いところ（構成、テーマ、言葉の使い方、等）に視点を持たせて、感想を簡潔に発表する。

活動中に行うこと

1. メモを書く

- ✓ 出発から帰校まで、体験したことや感じたことなどをメモしていく。
- ✓ 特に、自分で設定した活動新聞のテーマに沿った事柄を中心にメモをとる。

2. メモをまとめる

- ✓ 夜の自由時間や就寝前の全体指導の時間などを活用して、メモを整理したりまとめたりする。
- ✓ 友達と話し合っ、自分が気づかなかったこと等についても書き加えさせる。

事前・事後学習を教科等の教育課程に関連付けた事例

社会 テーマ：「食料生産について理解しよう」（対象：小学5年生）

概要：農業に従事している方に体験、取材・調査を行い、日本の農業について学んだことを活かし今後の食料生産を考える

- ・ 小学校5年生では、産業や歴史、政治の学習において、日本全体のことを各種の資料から読み取り、理解を図りますが、座学が中心になりがちです。
- ・ 産業に携わる人々や、歴史を築き、発展させてきた人々についてその働きが実感として伝わるような学習を実現するために、農山漁村体験を活用しましょう。



「なぜ農山漁村体験活動と関連付けるのか？」

学校での事前学習において、我が国の農業の全体像を理解した上で、体験活動を通して、地域で農業に従事している人々が、地域の特色を生かしたり、新しい事業を生み出したりするなど、工夫しながら取り組んでいる様子を実感することにより、農業の状況に関して子供たちの深い理解につなげるとともに、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考える学習にもつなげることができます。

学習指導要領（小学校）の関連する記載

（第2節 社会 第2 各学年の目標及び内容〔第5学年〕）

（2）我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

（イ） 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。

（ウ） 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア） 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

（イ） 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

事前学習

主な学習活動	指導上の留意事項
1. 食料のふるさと調べ	- 主な農産物がどこで生産されているかを調べ、白地図等に分布の様子を書かせる。 - また、例えば、日本人の主食である米（稲作）の盛んな庄内平野などを事例地として、生産にあたっての工夫や努力を把握させる。
2. 日本の農業の状況を知る	生産量をはじめ、日本の農業の全体像に関して学習させる。

体験活動

事後学習

主な学習活動	指導上の留意事項
1. 地域の食糧生産に関する比較	事前学習で学んだ事例と体験活動で訪れた地域を比較するなどして、食料生産に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて考え、表現する。
2. 日本の食料生産	食糧自給と日本の農業にも触れ、食料生産のあり方に関して考えを発表する。

活動中に行うこと

1. 農家に訪問し、体験活動などを行う。

- ✓ 農家の人の農業にかかる思いについて聞き取る。
- ✓ 実際に収穫体験を行う。
- ✓ 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上などに関して聞き取り、収穫の体験を行った作物の生産における工夫を知る。

2. 農協などを訪れて販売方法などを聞く。

- ✓ 作物の価格や費用、輸送先などに関して聞き取り、収穫の体験を行った作物がどのように流通するのかイメージを持たせる。

本項は、国立青少年教育振興機構「学校教育における『集団宿泊活動』の手引き・各教科等の関連を図る教育課程編成指導資料-」を参考にしながら記述しています。

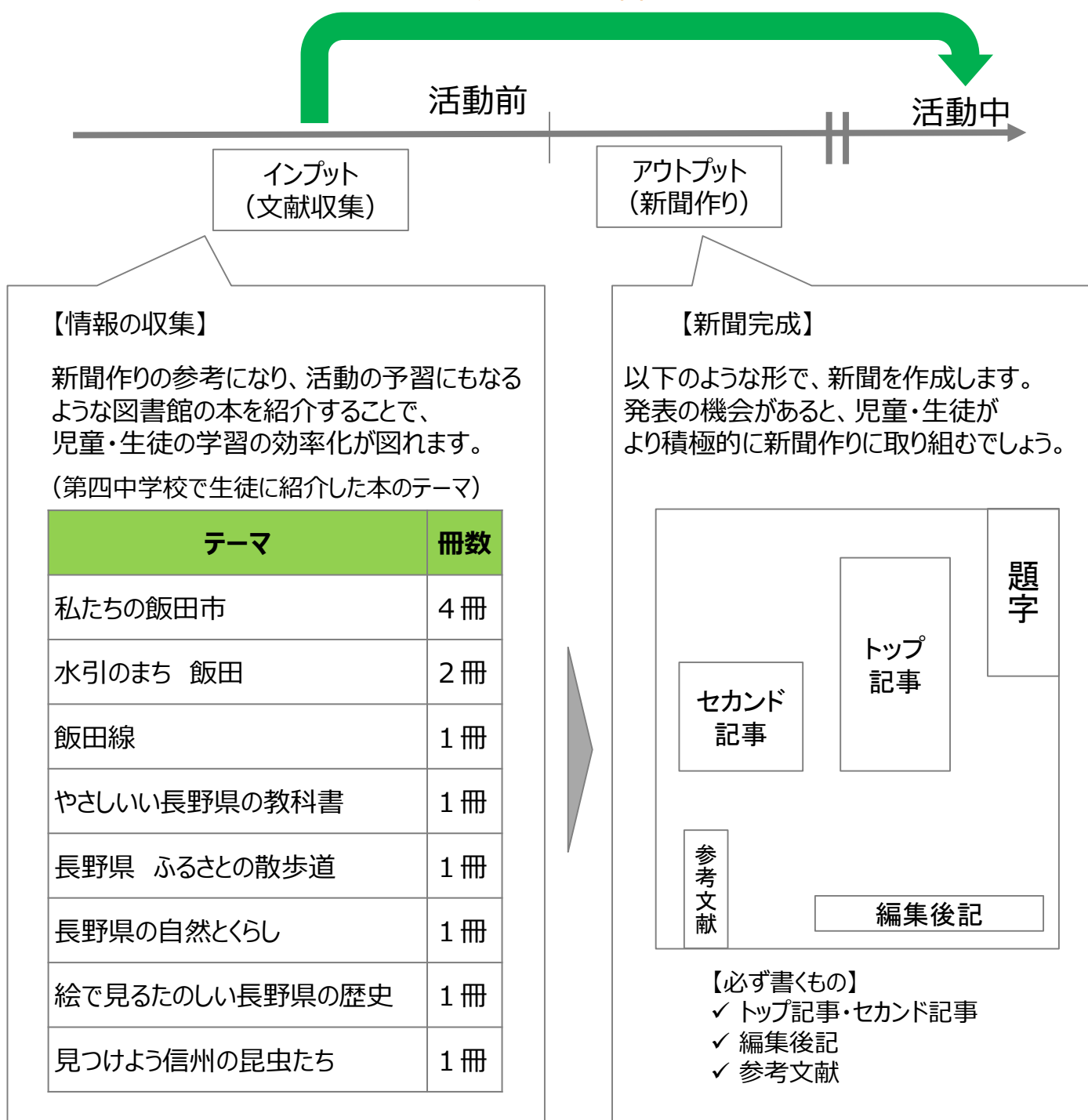
指導計画作成時の留意事項などの詳細は、同資料をご活用ください。
国立青少年教育振興機構のホームページからダウンロードすることができます。

なお、同資料は、平成20年に告知された現学習指導要領に基づいて作成されていますので、新学習指導要領と一部異なる箇所があることにご留意ください。

事前学習として「新聞作り」を行うと、新聞作りの準備段階でのインプットが、農山漁村体験の予習にもなるため、活動中に得られる学びを増幅することが期待できます。

事前学習の一例「新聞作り」（武蔵野市立第四中学校）

活動のための予習にもなる



新聞作りは、事前学習のみならず、事後学習としても実施することができますが、事前に行うか事後に行うかで、期待出来る教育効果に違いが生じます。

事前・事後の新聞作りの比較

	事前学習	事後学習
特徴	- 主にインターネットや書籍などの一般に公開されている情報を元に作成する - 公開情報がソースになるため、客観的な内容になりやすい	- 主に活動中に体験したことを元に作成する - 活動に興味・関心を持っている保護者や後輩にも読まれやすい
教育効果	- 他の児童・生徒が作成した新聞から新たな情報が学べる - 情報を調べる能力が身につく - 農山漁村体験の予習になる	- 活動中に新聞作りに活用出来る素材を入手しなければいけないので、真剣に活動に取り組むようになる - 活動中に学んだことが定着する

新聞作りのスケジュール例（武蔵野市立第四中学校）

活動前

活動中

活動後

事前の新聞作り（個人ごと）

事後の新聞作り（班ごと）

5/22 新聞概要説明、テーマ決め
 5/25,29 新聞作り（図書館室及びPC室利用）
 6/12,15 新聞作り
 6/19 発表会準備
 7/3,8 発表会（発表後、学校に掲示）

（事後新聞用のメモ）
 10/15 新聞概要説明、作業開始
 10/16 新聞作り
 10/18 新聞作り
 10/23 新聞作り
 10/24 新聞作り↓提出

事前学習のまとめ新聞発表方法（武蔵野市立第四中学校）

活動新聞の発表会 ～ 発表の準備をしよう ～

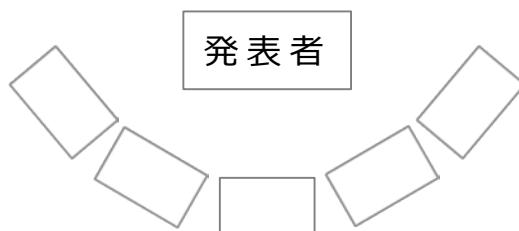
1. 発表時間 1人あたり2～3分程度（600字原稿用紙1枚程度）

発表の後は、質疑応答：1分間、フィードバックシートへの記入：2分間

2. 発表日 ① ●月●日、② ●月●日（学校公開日）

3. 発表方法

- 発表原稿をしっかりと書きましょう。
- 原稿はなるべく見ないで発表するようにしましょう。
- 班の中で発表します。
- 発表者は自分の活動新聞を板目紙にクリップでとめ、みんなに示しながら発表します。
- 特に発表したいポイントを詳しく説明すると分かりやすい発表になるでしょう。



- 班長が司会をします。発表の順番は、あらかじめ決めておいてください。
 - それぞれの発表内容は、お互いに評価します。フィードバックシートにしっかり記入しましょう。
- 司会者は、フィードバックシートへ記入する時間を指示してください。

⇒ p.104に、フィードバックシート（例）を掲載

4. プレゼンカ（発表する力）を高めよう！

この発表会は、それぞれの人が調べた課題に関して、お互いの理解を深めるためのものです。その課題についてまったく知らない人にも理解できるように、分かりやすい発表を目指しましょう。そのためには、まず、発表者が入念な準備をし、堂々とした態度で発表することです。しっかり準備をして、当日の流れがスムーズにいくようにしましょう。

これからの時代は、自分の考えを発表する力＝プレゼンカがますます求められます。友達のプレゼンを聴き、ともに考え、自分の意見も伝える経験を重ねていくと、自分のプレゼンカも高まります。発表者は、堂々とした態度で文の最後まで大きな声でしっかり言うことが大切です。原稿を見ないで発表できる自信がつくまで十分に練習して発表に臨みましょう。

発表に対するフィードバックシート（例）

発表会フィードバックシート

班

__年__組__番 氏名：__

1人目 __さんの発表

良かったと思う点

A

改善すると良くなる点

A

2人目 __さんの発表

良かったと思う点

A

改善すると良くなる点

A

3人目 __さんの発表

良かったと思う点

A

改善すると良くなる点

A

4人目 __さんの発表

良かったと思う点

A

改善すると良くなる点

A

5人目 __さんの発表

良かったと思う点

A

改善すると良くなる点

A

__さんの発表が、最も良かったと感じました。

民泊先への挨拶や御礼の手紙を通じて、手紙の書き方を学ぶことができます

手紙の書き方の指導例（武蔵野市立第四中学校）

②

☆手紙の書き方☆

本文 ①書き出し ②()のあいさつ ③様子・安否を尋ねる

本文 ④近況を伝える ⑤用件：手紙を出す目的・内容を書く

⑥終わりのあいさつ ⑦結び(結語) ⑧日付 ⑨名前 ⑩あて名

⑪折る

☆手紙の書き方☆

①書き出し ②()のあいさつ ③様子・安否を尋ねる

④近況を伝える ⑤用件：手紙を出す目的・内容を書く

⑥終わりのあいさつ ⑦結び(結語) ⑧日付 ⑨名前 ⑩あて名

⑪折る

①

セカンドスクールでお世話になる農家の方に手紙を書こう！

☆手紙の書き方☆

①書き出し ②()のあいさつ ③様子・安否を尋ねる

④近況を伝える ⑤用件：手紙を出す目的・内容を書く

⑥終わりのあいさつ ⑦結び(結語) ⑧日付 ⑨名前 ⑩あて名

⑪折る

③

☆手紙の書き方☆

①書き出し ②()のあいさつ ③様子・安否を尋ねる

④近況を伝える ⑤用件：手紙を出す目的・内容を書く

⑥終わりのあいさつ ⑦結び(結語) ⑧日付 ⑨名前 ⑩あて名

⑪折る

②

☆手紙の書き方☆

①書き出し ②()のあいさつ ③様子・安否を尋ねる

④近況を伝える ⑤用件：手紙を出す目的・内容を書く

⑥終わりのあいさつ ⑦結び(結語) ⑧日付 ⑨名前 ⑩あて名

⑪折る

【指導のポイント】

①正しい手紙の構成の伝達

②農山漁村体験活動と関係付けた例の提示

③表現の工夫を促進

各教科等に該当する事前学習を組み合わせ、以下のような授業計画を作成することができます

事前学習のプログラムの一例（胎内市立中条小学校）

：農業分野

：道徳分野

：文化分野

学習活動名	教育的なねらい	教科等名	時間
農業のさかんな地域をたずねて	農業に携わる方々が、どのような思いや願いをもっているかを知り、農業に対する関心を高める	社会	3
農家の方に聞いてみよう	農業をしていくうえで、大切なことや疑問、やりがいなどの質問事項を考え、友達とのやり取りを通して、質問内容の精度を高める	社会 総合	2
これからの食料生産を考えよう	それぞれの食品の自給率と、日本の食料自給率を関係付けながら考え、これからの生活を見直して、できることを考えたりする	社会	2
米粉ってなんだろう	米粉と小麦粉と比較したり、食料自給率と関係付けたりしながら、地域の特産品である米粉について理解を深める	総合	4
善悪の判断、自立、自由と責任	主人公のとった行動が、友達が体調を崩す原因になったことを考え、自分の行動を律する気持ち高める	道徳	1
礼儀	「我が家のルール」を交流することを通じて、それぞれの家庭には様々なルールやきまりがあることに気づき、民泊先でどのように過ごしたらよいかを考える	道徳	1
米粉カレーの作り方を決めよう	我が家のカレーと米粉カレーの作り方を比較しながら、米粉の可能性について考える	家庭	3
自分にできることを考えよう	支援学級担任からの話を聞き、みんなが気持ちよく、楽しく過ごすためにはどうしたらいいのかを考え、自分の役割を自覚し、友達のとの接し方を考える	学級活動	1
役割分担をしよう	5日間の概要の説明を聞き、5日間のめあてを決め、自分の役割を自覚する	総合	2
お家の人に、はがきを書こう	民泊での活動やその感想を相手意識をもってまとめるために、どのような内容がいいのかを考える	国語	1

出典）長期宿泊体験活動実践校における取組事例の概要（都市農山漁村交流活性化機構）

<https://www.kouryu.or.jp/kodomo/school/4koujirei.pdf>